浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成１５年９月　　第１６号

見つめてくれていました
聞いていてくれました
案じてくれていました

８月の末より毎日新聞の社会面に「追跡ネット自殺」と題した連載が始まりました。インターネットで知り合った若者の集団自殺が相次ぎ、警察庁によると今年に入って既遂だけで１１件３２名が死亡したと言います。未遂者は集団自殺について、「一人でやるほどの決意もなかった」「一人では淋しいし怖い」そして、「みんな悩みを抱えて生きているのに俺たちだけが一歩飛び越えて死を選ぶのはなぜだろう？」と言われる。またある人は「失ってはいけない物があれば違ったかもね・・・それが無いから」と言われる。集団自殺でなく一人自ら命を絶つ人も年間３万人を超えるそうです。

この連載を書かれる記者は少しでも自殺を防ぐ手立てを考えていきたいと言われます。私も考えさせられました。そうした中に思われることは、よく“俺の命”“俺の体”だと言いますが決して“俺の命”でも“俺の体”でもないのです。私の“命”“体”は深い、深い、大きな、大きな不可思議なご縁によって、お預かりした命なのです。お預かりした体なのです。俺の物ではないのです。

俺の物ならどうしようと自由かもしれませんが、お預かりした“命”“体”であったと気が付けば、大切に大事にしなければと思う心が必ず起きてくるものです。生きると言うことは確かに苦しいし、辛いことが多いです。そんなとき誰もが「自分だけ苦しむのは何故だろう」「自分は皆から見捨てられた」「自分を理解してくれる人は誰もいない」と自暴自棄になることがありますが、そうではないのですよ。仏様の教えにどうか耳を傾けてください。「見捨てはしないよ！必ず救う！」との仏様の声が聞こえてくるはずです。 みんなが私のことを見捨てても如来（仏）様だけは私のことを静かに見つめてくれていました。私の悩みに耳を傾けてくれていました。私のことを案じどうしでありました。かたじけないことでありますと味わえてくるはずであります。そこに命を大切に生きる勇気が湧いてくる思いであります。

合掌
住職　高島利明

読　者　の　広　場

「心に響きあり」

本弘寺さんに仏縁をいただいて七年、この間、日曜礼拝と月一度の定例法話会に仏法を聴聞させていただいて参りました。聴聞させていただく中で全部理解できなくても、一つか二つでも自分に頷けることがあればとの思いで聴聞させていただいて参りました。

ある時、坊守さんに誘われて本山に足を運ぶようになり、北海道、北陸、九州と各地の先生方の法話をいただいております。また、ご住職様が仏法は足で聞けと話されたことがありました。諸先生の仏法をいただく中で胸が熱くなるのを感じましたとき、ご住職様が足で聞きなさいと言われたことは、この発見と感動に出会うことだったのだと深く頷けられました。また、ご住職様が私たちに難問を問いかけられました。「何のために生まれてきたのか？」でした。気が付いたら私がいたものね！でした。それは弥陀の本願に出会うためなんですよと教えてくださいました。本願に出会うのには聴聞させていただくことだと思い、出来るだけ時間を作って聴聞させていただくようにしております。

小雨の降るある日、本山にお参りさせていただきまして、本堂の阿弥陀様を仰ぎ念仏を称えておりましたら、涙がこぼれて参りました。あら？悲しくもないのにこの涙は何だろう？と不思議に思いました。ふと頭の中をよぎるものがありました。この流れる涙は私の涙では無く、「阿弥陀様がよく一人雨の中、参られた。」と涙を流して迎えてくれたのだと思いました。ふと親鸞様のご絵像の方に目を移しますと、その瞬間ご絵像が浮かび上がって出てこられました。「あら、お爺ちゃん」と心の中でつぶやきました。恐れ多くも親鸞様が祖父に見えたのです。素直にお爺ちゃんも私のお参りを喜んでくれたのだと思ったら、涙が一層こぼれました。ある先生が、仏法を聴聞する中に自分の中のもう一人の自分に出会うことですと仰いました。私に末永く聴聞できるようにと阿弥陀様の計らいで私に法友の手を携えてくださったのでしょう。ありがたく勿体ないことです。これからは自分の中の自分を、法友と一緒に探し続けたいと思います。

合掌
栗田満江

お　稚　児　さ　ん　募　集

締め切り迫る！！

誰とでも仲良く、明るく、すこやかにのびのびと成長する仏の子として、開山五十周年法要の儀式に参列するお稚児さんを募集いたします。

対象年齢：３才～小学６年生
費用　　：７５００円（衣裳代、お弁当、お土産等含む）
申し込み用紙は受付にございます。
是非ご参加くださいませ。